

## 人とヒグマの軋轢（人身・経済被害、危険事例、遊歩道閉鎖等） の発生状況（速報）

### <人身被害>

2017（平成 29）年度は羅臼町と標津町における人身被害なし、斜里町では 1 件発生。2017 年 10 月 9 日、斜里町朱円東の農地においてヒグマの有害駆除中のハンターが、右顔面を叩かれ、左太ももを噛まれた（資料 1-1-3 に詳細）。被害者の命に別状はなかった。加害個体は、同行していた別のハンターにその場で駆除された。

### <危険事例>

#### 斜里町

2017（平成 29）年度は 10 月末時点で危険事例が 20 件発生した。

人が関連する食品（釣り人が放置した荷物や釣り上げた魚など）や不法投棄ゴミなどにヒグマが餌付いてしまう事例、住宅地にヒグマが侵入する事例、ヒグマが車両に接近または接触する事例、ヒグマが登山道に滞留し登山者と近距離で接近する事例などであった。詳細は以下の通り。

#### 2017（平成 29）年度

①5月5日 岩尾別	車に接近するヒグマが出没。駐車帯に注意看板を設置。個体は MK と推測された。
②5月8日 知床自然センター	廃油置き場の油がヒグマに舐められる事例が発生。電気柵を設置して対応。個体は不明。
③6月16日 知床公園線	2 頭子連れヒグマが車を叩く事例が発生。ヒグマは車の接近に驚いて叩いた状況。車両に多少の凹みと傷がついた。個体は不明。
④6月29日 真鯉	沿岸でシマエビ漁中の猟師がヒグマに追いかけられた。個体は不明。
⑤7月13日 羅臼岳登山道	登山者がヒグマに唸られた。個体は不明。
⑥7月18日 知床横断道	ゴミ（ヨーグルト容器）を啜るヒグマが目撃された。個体は 09B06 親子。峠のトイレに注意標識を設置。
⑦7月29日 知床横断道	ヒグマ（単独）が停車した車両に接近して齧る事例が発生。車両に傷痕はなし（触れただけかもしれない）。個体は不明。
⑧7月下旬～9月 下旬 大沢～羅臼平	登山道沿いでヒグマが滞留。登山者と近距離での遭遇が相次いで発生。ヒグマは 2 個体おり、LO（オス）と HM（メス）。9 月 16 日に登山者を一時的に止めてヒグマを追い払う対応を実施。
⑨8月24日 蛸岩付近	マスの定置網にヒグマが頻繁に出没。定置網に穴があく被害が発生。船が近づいても逃げない個体があり、作業に支障をきたした。

⑩9月15日 岩尾別	車に寄ってくるヒグマの目撃事例。個体は不明。
⑪9月17日 フンベ川近く	早朝、ウトロ住民が歩いている際に、川から国道に上がるヒグマにクマスプレーを近距離で噴く事例が発生。個体は不明。
⑫9月22日 遠音別川	ヒグマが出没し、釣り人が走って逃げる事例が発生。個体は不明。
⑬9月25日 岩尾別川河口	追い払い中にヒグマを実弾で誤射し、負傷させる。行動から傷は浅いと判断し経過観察とする。その後の出没はなし。個体IDのない亜成獣。
⑭9月30日～31日 ウトロ市街地	夜間、ウトロ学校（小中学校）の通学路沿いにヒグマが出没。夜間と翌朝にパトロールを実施するがヒグマは見つからず。道の駅周辺にも糞あり。DNAから個体はワキイチと推定された。10月4日にウトロ高原農地で駆除された個体が同一個体であった。
⑮10月13日 遠音別川	釣り人の釣った魚がヒグマに奪われや。注意看板を追加設置。個体は不明。 ※この事例が発生する前からヒグマが出没しており、注意看板を設置してあった。
⑯10月14日 幌別川河口	釣り人の残置していた魚がヒグマに奪われた。個体は不明。昨年は8月24日から釣り人の荷物や魚が連続的に荒らされていた。
⑰10月26日 朝日町	本町に近いパークゴルフ場でヒグマの糞が発見された。個体は不明。
⑱10月28日 ウトロ東	住宅の干し魚がヒグマに奪われた。電気柵を設置。個体は不明。
⑲10月30日 ウトロ高原	住宅前の梨の木にヒグマが餌付き、夜間に出没するようになった。電気柵と実の撤去を実施。個体は不明。
⑳10月31日 弁財覆道付近	国道沿いで下半身の動かないヒグマが発見された。警察が一時的に道路を封鎖。ヒグマを安楽死処分とした。原因は交通事故と判断された。

### 羅臼町

2017（平成29）年度は10月末時点で危険事例が14件発生した。春期、定置番屋の施設がヒグマに破壊される被害が発生。夏期には、水産加工場の残渣に餌付いたヒグマが頻繁に敷地内に侵入する事例があった。また、秋期には住宅地に侵入したヒグマに干し魚を奪われ、さらに窓ガラスや扉を破壊される被害が発生した。

### 2017（平成29）年度

①5月28～29日 滝ノ下	定置漁業番屋のトイレが破壊された（おそらく臭いのため）。昨年にも同様の被害があり、その他、屋外での作業中に近距離まで接近して来るヒグマが出没。現れるのは白い毛が特徴的な個体がほとんどのため、トイレを壊した加害個体も同一のヒグマと判断され有害捕獲された。
------------------	--

②6月6日 相泊	土砂崩れの復旧工事現場にヒグマが出没。作業中の現場に接近したため工事を中断して作業員を退避させた後に追い払いを実施した。
③6月15日 岬町モセカル	漁業者が屋外で作業している日中、海岸の住宅地にヒグマが出没。既に追い払いを受けているにもかかわらず、再度出没する行動から有害捕獲となった。
④6月16日 海岸町	夜間、住宅の裏庭にヒグマが侵入。コンポストを荒らし逃走。その後、付近の道路山側斜面にいるところを発見したため追い払いを実施した。
⑤6月27日 知床湖横断道路	観光客の車両とヒグマが近距離遭遇。車は道にヒグマがいたため一時停車した。ヒグマは車両を気にすることなく2～3mの距離まで接近してきた。
⑥7月9日 海岸町	ヒグマ出没対応中に居合わせた観光客と山側から住宅地に侵入してきたヒグマが数十mの距離で遭遇。観光客は車両に退避。
⑦7月上旬 知床岬	ミンククジラの死体が知床岬先端の岩礁帯に漂着。ヒグマが採食しているところを撮影しようと近距離まで接近しているカメラマンの存在が報告される。環境省・羅臼町・知床財団の連名で注意喚起の文書を関係機関に配布した。
⑧8月3日 羅臼湖	環境省職員が羅臼湖歩道整備作業中に15m程度の近距離でヒグマと遭遇。ヒグマは歩道を引き返した。
⑨8月17日 羅臼岳登山道	屏風岩付近で登山者がヒグマと遭遇。ヒグマは藪内にいたが、気付いた時には後方1m程の近距離にいた。威嚇行動は無くその後ヒグマは離れて行った。その他、環境省職員がスズラン峠付近で距離5m程でヒグマと近距離遭遇した。ヒグマは木に登って唸っていた。環境省職員は下山した一方で、そのままヒグマの横を通過した登山者もいた。
⑩8月22日 北浜	土砂崩れの復旧工事現場で工事作業中にもかかわらず近距離に接近を繰り返すヒグマが有害捕獲となった。
⑪9月6日～ 10月13日 幌萌町	水産加工場の残渣に誘引されたヒグマが周辺民家の隣接地に出没。残渣を荒らした明確な物証はなかったが、残渣置き場の状況から食害したと判断され、警戒していたところ、10月13日に狩猟により当該個体が捕獲された。
⑫10月3日 岬町・海岸町	モセカルベツ川河口に出没したヒグマが海岸を市街地方向に移動を続け、オッカバケ漁港に侵入しようとしたため有害捕獲となった。港内の釣り人は車両に退避。
⑬10月29日 海岸町	夜間に漁業番屋の倉庫の扉がヒグマに破壊され内部に侵入、倉庫内に干してあった魚がヒグマに奪われた。
⑭10月30日 共栄町	夜間、軒先に干してあった魚がヒグマに奪われた。その際、住宅一階の倉庫部分の入口扉の窓ガラスが破壊されたが、内部に侵入はしていない。

## 標津町

2017（平成 29）年度は 10 月末時点で危険事例が 8 件発生した。デントコーン畑にヒグマが定着する事例、廃乳にヒグマが誘引され牛舎近くに出没する事例、市街地近くに出没し人と近距離で遭遇する事例が発生した。

## 2017（平成 29）年度

①6月29日 崎無異地区	民宿横で発生した垂成獣駆除対応。オオハナウドについて個体が民宿周辺に居つく。緩急帯を整備するも対応中に度重なり出没したため駆除。
②7月5日 忠類地区	例年デントコーン畑の被害が発生している牧場にて、処理前の廃乳にクマがついた。夜間のみの出没のため捕獲檻で駆除。
③7月21日 茶志骨地区	敷地内に度重なり出没。廃乳にクマがつき、捕獲檻を設置するも、捕獲できず。
④7月23日 忠類地区	市街地パークゴルフ場で近隣住民とニアミス。
⑤7月24日 古多糠地区	牧場敷地内に度重なり出没。廃乳にクマがつき、夜間のみの出没のため捕獲檻で駆除。
⑥8月13日から順次 金山地区	親子連れ（仔2頭連れ）が国道脇でキツリフネを捕食しに出没し続けた事例。車や人間にまったく警戒せず、追い払いの結果、特定の車両に警戒するようになるも11月に入ってもなお付近に出没。観光客？等による餌付け行為の疑いもあるが確認できず。駆除対象であるが、未だ捕獲できず。
⑦9月6日から10月16日	西北標津・古多糠・忠類のデントコーン畑にてヒグマの食害を確認。収穫までに合計5か所 65haの畑で被害、被害面積は計測不能。
⑧9月21日 古多糠地区	ヒグマ被害発生中のデントコーン畑付近の別の農家が、放牧中の牛を探しに行ったところ、デントコーン畑についていたと思われる親子連れと遭遇。農家は畑に逃げて被害なし。

### <農業被害>

- ・斜里町における今年度の農作物被害は、未集計。全体にヒグマの被害は多い印象だが、電気柵の導入を行っている農地（ウトロ高原等）では被害が軽減している。ハンターによる農地のパトロール時間は例年と比較して増加。
- ・羅臼町については農業被害なし。
- ・標津町については、デントコーンの作付けが増加している影響で、デントコーンの被害は増加している。ヒグマによる被害金額や面積の集計は行われていない。

<遊歩道閉鎖状況>

- ・ヒグマの出没により閉鎖対応しているのは知床五湖地上遊歩道とフレペの滝遊歩道。
- ・羅臼湖や知床連山登山道は基本的に閉鎖対応なし。

【知床五湖】

2017年（平成29年）10月末までの状況

- ・地上歩道におけるヒグマ遭遇回数は49回（図1）。
- ・ヒグマ活動期のツアー中止回数は14回（図2）。
- ・植生保護期の緊急閉鎖回数（荒天原因含む）は15回、自由利用期の緊急閉鎖回数（荒天原因含む）は10回（図2）。

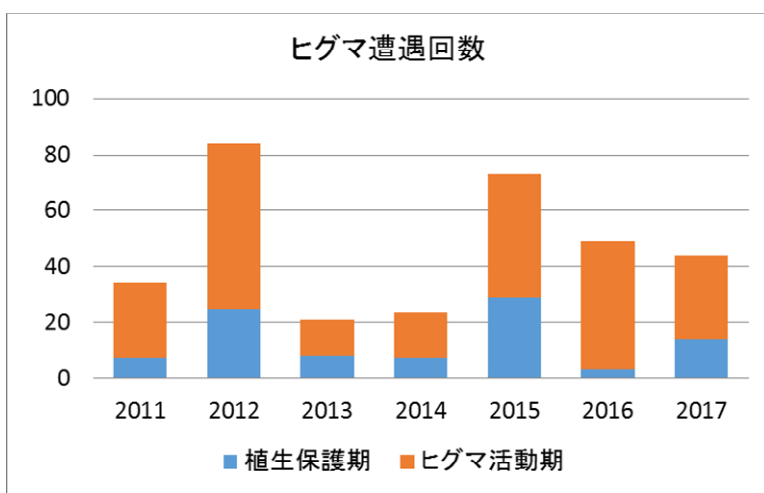


図1. 知床五湖地上歩道におけるヒグマ遭遇回数

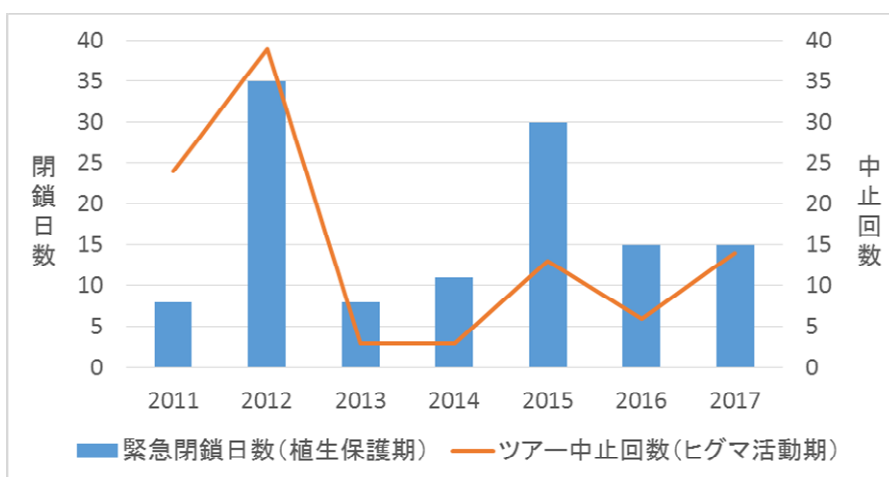


図2. 知床五湖地上歩道の緊急閉鎖日数とツアー中止回数

【フレペの滝遊歩道】

・2017年（平成29年）10月末までで閉鎖回数は49回（表1）。

表1. 2017年（平成29年）10月末までのフレペの滝遊歩道閉鎖状況（ヒグマによる閉鎖）

月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1日					25回	39回	
2日			4回	9回			
3日			5回				
4日				10回	26回		
5日							
6日			6回		27回		
7日					28回		
8日							
9日				11回	29回	40回	47回
10日				12回			
11日					30回		
12日				13回	31回		
13日					32回		48回
14日						41回	
15日							
16日				14回		42回	
17日				15回	33、34回	43回	
18日				16回			
19日				17回			
20日					35回		
21日		1回		18、19回		44回	
22日					36回		
23日			7回				
24日							
25日					37、38回		49回
26日						45回	
27日				20回			
28日		2回	8回	21、22回		46回	
29日		3回		23回			
30日				24回			
31日							

【知床連山登山道】

- ・2017年が最多の目撃件数となった（表3）。
- ・2016年から林野庁が各登山口にヒグマ目撃情報収集のためのアンケート用紙と回収ボックスを設置。ヒグマ目撃情報の収集を強化した。
- ・登山者自身の判断でヒグマとの遭遇回避や退避等の対策がなされた例がほとんどである。
- ・8月下旬～9月下旬にかけて、羅臼平や三ツ峰付近でハイマツの実を食べるヒグマが登山道の至近に定着した。登山者がヒグマと至近距離で遭遇したり、登山者が登山道を進めなくなったりする状況が頻繁に発生した。
- ・登山口における注意喚起の看板設置や、クマスプレーのレンタル等の対策を実施。

表3. 登山道におけるヒグマ目撃件数

	羅臼岳 (岩尾別コース)	硫黄山	縦走路	羅臼岳 (羅臼温泉コース)	計
2012年	42	9	4	9	64
2013年	17	0	0	2	19
2014年	6	4	0	2	12
2015年	24	5	6	15	50
2016年	17	6	6	3	32
2017年 (10月末)	81	19	17	16	133



図3. 登山口に設置した看板